

果堂資料について

この果堂資料を所蔵して居られた上島善重氏は、安政元年（1854）長岡村（現箕輪町）に生まれ、陸軍士官学校などに学んだ後、陸軍士官として西南戦争・日清戦争・日露戦争に従軍し、特に日露戦争に於いては、重砲隊大隊長として旅順・奉天の対戦に偉勲をたて、陸軍中佐に昇進したという経歴の持ち主である。

陸軍退役後は高遠町に住み、後に推されて大正3年から同6年まで町長を勤めて、高遠町の行政にも参与された。

その後余暇を得て、幼い頃から強い関心を持っていた郷土史についての研究に務め、地域に残された史料を蒐集整理し、数十冊に及ぶ『果堂遺構』（当館では『果堂文庫』という）を残した。中でも郷土の砲術家、坂本天山の砲技に関する研究は、上島氏が砲兵隊の指揮者であったこともあって、『果堂文庫』の中心をなしている。

因みに、『果堂』は、上島氏の文筆上の号である。

この目録中（1）に収録されている資料は、上島氏が研究のために集められた高遠藩の藩政関係の資料である。この中心には『内状』と称する江戸藩邸に勤仕する家老と、在所の高遠城に勤仕する家老との間で、頻繁にやりとりされる、藩政上の諸問題に関する相談の書状が多数見つかった。これらは、少し読み取り難い資料ではあるが、藩の財政問題、人事異動、藩士の賞罰、藩主家族の婚姻など、高遠藩の内情を窺わせる事項が、多岐に亘って内々に語られているところが面白い。

特に高遠藩に永遠流となって、十年近い幽閉の日々を送る大奥取締・絵島の赦免を、幕府の閣僚に働きかける家老達の往復書簡は、この赦免運動が、何故かついに不成功に終わった事と相俟って、非常に興味深い。

（2）に収録された資料は、主として明治以後の上島氏の私的資料であるが、日露戦争関係の諸資料及び陸軍作成の諸地図などは、今は貴重な資料と言えよう。その他、在郷軍人会関係の資料なども多く残されている。

これらの資料を御調べになる際には、『果堂文庫』（別目録あり）も併せてご覧になることをお勧めします。
(平成18年7月)

『果堂資料（3）』は、平成29年（2017）東京の古書店より高遠町図書館が購入したものである。

資料内容は、

- 1.町政および高遠城址関係
- 2.軍事関係（日清・日露戦争）
- 3.図書館関係
- 4.絵地図
- 5.坂本天山他郷土研究資料

に分類されている。

鏑木家資料について

この468点に及ぶ文書群は、平成5年の春、現在は京都府に居られる鏑木家御当主の鏑木路易氏が、この祖父の地高遠にお花見を兼ねて訪ねられた際のお話により、当館へ寄贈されたものである。

鏑木家は、元禄2年初代藤太夫が内藤公に召し出されて以来、維新による廃藩に至るまで約180年間、8代にわたって高遠藩仕として勤仕し、家禄は、ほぼ100石～150石、代々御武具奉行、御金奉行、御使番、郡代、大目付、御物頭、御用役等、藩の要職を歴任した上士の家柄である。

これらの文書の種類は多岐に涉っているが、何と云っても中心は勤仕に関するたくさんの留書・覚書類である。特に幕末に書き残された多くの文書の中には、二度に及ぶ長州征伐に藩主に従って兵を率いて大坂に出陣し、将軍家茂が京都で卒するや、その尊骸を守って、共に江戸へ引き上げた際の留書、また、その後は旧式の兵を急遽西洋流に調練し直し、戊申の戦役には官軍として越後から会津へと転戦した日記等、大動乱期における小藩の苦衷を忍ばせる書類は、興味深いところである。

鏑木家は、どちらかと言えば武人の家筋であったらしく、たくさんの武術・兵法に関する伝授書の類も多く、その方面の研究者にとっては、興味ある資料と思われる。

鏑木家の私的文書としては、家系書・親類書・勤仕録・奉書切紙等の類、そして多くの私信、子供の誕生やその名付け等の記録があり、珍しい明治期の海外渡航証（パスポート）等も見つかった。また、数々の書や、絵巻風に描かれた行列図、その他数点の絵等も含まれている

これら多くの文書は、いずれも毛筆ながら細かく、丹念に書かれた物が多く、鏑木家代々の人達の真面目で几帳面な勤めぶりを偲ばせる。この先人達が、私共に書き残された貴重な文書を大切に保存し、一つ一つを丹念に究明し、江戸期の高遠藩の姿を知る手がかりにして行きたいものである。

平成5年7月
高遠町図書館

狐島村資料（１）（２）について

狐島村資料（１）は、平成２７年８月、さいたま市在住の個人より伊那市に対して寄附申出があり、同年１０月に寄附受納した資料である。寄附者は以前より古文書を収集しており、かつて業者から一括購入した資料の中に伊那市に関係する資料を見つけたため、地元での活用を望み、寄附を申し出た。

狐島村資料は、その内容から元々は名主家で所有していた資料と考えられ。明和から文化・文政時期の資料が主であるが、元禄３年の検地反別帳や幕末の大橋普請関係なども見られる。

また、明和３年（１７６６）から文政３年（１８２０）までの木曾助郷に関する資料など、村方の様子を知る上で貴重な手掛かりとなる資料が多く残されている。

狐島村資料（２）は、伊那市創造館が平成２６年５月に古文書取扱業者より購入した資料で、元禄４年（１６９１）の検地帳や文化年間の宗門人別帳など狐島村に関する資料６点である。

令和４年１２月
伊那市立高遠町図書館

久保家資料について

久保家の最初は、高遠藩臣下代々録によると、藁科十之丞が貞享2年(1685)年御供番に召し出されました。その後、一時大庭姓を名乗りましたが、藩校進徳館の軍学師範となった藁科勘左衛門の頃から、再び藁科姓に戻っています。

安政3年(1856)、命により八代藩主内藤頼直公の生母久保菊の生家久保家を、藁科勘左衛門の次男尚友が継ぐことになりました。しかし、尚友が早世したため、再び藁科家から三男の尚彪(讓次)が久保家に養子に入りました。

この資料における久保家は、藁科→大庭→久保と、変遷しました、

文久2年(1862)久保家を継承した久保讓次は、明治4年(1871)4月慶応義塾における勉学を終え高遠に帰国、同年8月、進徳館の英学科設立に伴い、教授に任命されました。間もなく「筑摩県学」の洋学舎長として赴任しました。

久保讓次の長男得二(天随)は、明治8年(1875)に生まれ、東京帝国大学院を出た後、長年著述業に従事しました。漢文学研究によって文学博士になり、後に台北帝国大学教授を務めました。

久保家資料の大半は、天随が「帝國文学」「斯文」等文芸誌に寄稿した、膨大な著作の<写>です。また、英語やドイツ語に堪能だった天随が翻訳した「エルテル」「酔人の妻」等の図書も含まれています。

少年期、碁を褒められた天随、後に「ああいうものは、先人を超す独創力を振るうことが出来ないから、全く下らないものだ。やるなら他人に出来ない事、全く新しい事だけをやれ」と言ったそうで、これが庭訓だったと長男の久保舜一氏は記しています。

天随の孫である久保明氏(神奈川県逗子市)から、平成15年より折々久保家等先祖の資料を始め「消えゆく世代(とき)を求めて」(1~28)と題した大部の記録集を、当館へ寄贈して頂きました。

平成21年4月
伊那市立高遠町図書館

斎藤家資料について

平成12年1月に高遠町歴史博物館へ「内藤頼卿公御初入行列之図」が東京都北区在住の斎藤斉氏から寄贈されました。

この78点の「斎藤家資料」も同時に寄贈され、高遠町図書館で保管することになりました。

斎藤氏は、高遠藩家老の内藤蔵人の子孫で、斎藤斉氏から4代遡った内藤八蔵が、高遠藩城代家老から斎藤家に養子にきた縁で、藩主内藤家に関する資料が千葉県の実家に保存されていました。

資料の内容は、藩主内藤家の系譜・系図、「高遠氏世乗 壹～十四」、「内藤家伝 清流記（乾）（坤）」など、内藤家に関する古書・古文書類が中心になっています。

平成21年4月
伊那市立高遠町図書館

清水家資料について

清水家資料は、平成 18 年 5 月伊那市美篤在住、清水正一氏から寄贈の申し出があり、高遠町図書館にて保存・活用させていただくことになりました。

高遠藩は、幕末の文久 3 年（1863）城下が大火災に見舞われ、その復興策として弁財天橋（今の天女橋）向こうに、多町・相生町を新設しました。

清水家資料 15 点は、幕末・明治初めの「多町」に関する御用留帳、宗門人別御改帳などです。

当時清水正一氏の曾祖父、嘉吉氏が丁代を務めていたことから、清水家に資料が残っていたと思われま

平成 18 年 12 月
伊那市立高遠町図書館

じゃくすい 若水資料について

平成13年9月前田稔氏から、父前田若水の俳句短冊をはじめとした46点の資料と、767冊の所蔵を、高遠町図書館へ寄贈していただきました。

図書は、既に「若水文庫」として装備、登録を済ませ、貸し出しや閲覧など、活用をはじめています。

今回、俳句短冊や手紙類、「層雲」の添削原稿などを「若水資料」として目録にまとめました。

前田若水（糸蔵）は、明治34年（1901）河南村上山田（現伊那市高遠町上山田）に生まれました。

青森中学（旧制）・長野高等女学校・伊那高等女学校・木曾中学などに奉職、この間、昭和25年妻の八千代が死去。以後一人で家庭と仕事、そして退職後は村会議員など公職に尽くしました。

昭和43年（1968）67歳で亡くなりました。

俳句との出会いは、大正15年青森にて「新俳句研究」を買い求め、「面白い」と思ったことからはじまりました。

「層雲」主幹荻原井泉水とは、勤めていた女学校へ招き、講演会を催すなど浅からぬ付き合いでした。

資料の中には、井泉水からの手紙が3点あります。

昭和14年、種田山頭火が伊那路を北上し、伊那高遠女学校の若水を訪ねてきました。若水は山頭火を、美篤の井月の墓に案内するなど、懇切にもてなしました。山頭火の「旅日記」には「山国のよろしき、ほんに山国のよろしきに触れる」とあります。

資料には、山頭火の俳句短冊が2点含まれています。

若水の句集「仙丈」、二行詩集「霧」・「流浪の詩人井月の人と作品」の3点は、郷土資料目録「63」「64」「331」に収蔵されています。

『朝夕の寒いことだけ書いた葉書一枚 若水』

平成20年4月

伊那市立高遠町図書館

高田家資料について

高田家資料285点は、平成14年の秋、高遠町図書館に寄贈され、約1ヶ月の整理期間を経て、目録が作成されたものである。

この高田家は、高遠藩の代官役などを勤めた高田六右衛門の次男・昌茂（貞右衛門・甚太夫）が明和の初め頃、特技の馬術をもって藩に召し抱えられ、新たに一家を成した時から、明治の廃藩に至るまで、四代にわたり、主として藩の御馬役などを勤め、さらに藩士たちの馬術稽古の指南役でもあったようである。

したがって、高田家の資料の中には、藩の御厩関係・馬術関係の資料が多く、また、御馬役として藩主の参勤の際にも御駕籠脇に従い、度々江戸と高遠の間を往復したらしく、参勤道中に関する資料も多く見出された。

また、祐筆方の諸御用控や、諏訪神社御柱祭礼に騎馬行列を差し出した際の御用控なども、興味深い資料である。

大坪流の馬術関係の伝書を初め、荻野流鉄砲・塚原ト傳流剣術から関流和算の伝書などまで、多数の皆伝書が大切に保存されており、高田家四代の人達が、いかに文武の修行に熱心であったかを伝えている。

明治以後の高田家は、旧藩士の多くがそうであったように、教職に従事したようで、明治初期のこの地方の教育状況を知る手掛かりとなるような資料が、何点か残されている。

平成15年10月
高遠町図書館

高遠小学校資料目録について

「高遠小学校資料」は、高遠小学校に収蔵されていたものを平成25年高遠町図書館へ移管した資料である。

高遠小学校は、明治19年4月、小学校令により東高遠学校、西高遠学校、上・下山田学校、勝間学校が合併し、「上伊那郡町立高遠学校」として発足した。

また、河南小学校は、明治22年高遠町から河南村が分離したことにより、河南尋常小学校（勝間（本校）、上・下山田分校）が開校。その後、明治25年三校を統合し小原に新設されたが、昭和59年3月高遠小学校との合併により閉校となった。

「信州高遠学校百年史」「河南学校沿革史」より

資料は、次のように分類されている。

- (1) 当直日誌…昭和初期より昭和50年までの河南小学校の当直日誌
- (2) 河南小学校関係資料…明治22年～昭和58年まで
職員会記録簿（大正2年～昭和50年）・学校要覧・修学旅行関係
- (3) 高遠小学校関係資料…明治19年～平成5年まで
高遠学校沿革誌（明治19年・明治36年～昭和24年）
高遠小学生新聞（昭和25年～昭和32年）
学校林（伊沢学校林）関係資料
- (4) 役場関係資料…明治17年～昭和30年代
河南尋常高等学校改築関係資料（大正10年～同12年）
高遠報国婦人会・高遠婦人会関係資料（明治37年～）
- (5) 図書館関係資料…明治18年～昭和40年頃
進徳図書館及び美術館建設関係資料・会誌（明治41年～明治45年）
各種台帳
- (6) 地図資料…高遠町之図（江戸時代写）・河南村小原地図写 他
- (7) 写真…河南小学校全景（明治末～大正初期）・高遠小学校理科園
入学及び卒業記念写真 他
- (8) その他…刊本・雑誌・古文書

*個人情報保護のため、閲覧できない資料があります。

殿島村名主資料について

この殿島村名主家資料91点は、平成15年秋、県内の古書店より購入されて、高遠町図書館の所蔵となった資料である。

殿島村は、現在伊那市東春近地区の一部であるが、江戸時代には高遠領春近郷に属し、宝永の頃、殿島村を、上・中・下のそれぞれの独立した三つの村に分けたようである。この資料の主なるものは、上殿島村の名主唐沢家に残されていたものと思われる。

これらの資料によると、上殿島村の村高は、江戸時代を通してほぼ570余石、人口750人程の村であったが、天竜川と三峰川に囲まれて、用水には恵まれていたが、度々の洪水による田畑の損耗、橋梁の流出などに悩まされ、また、刈敷き山を持っていないために、田畑の培養にも苦労したようである。

宝永七年、この地方を調査した幕府巡見使に対し、元禄三年の真田藩による検地により、古検地より800余石の高増しとなった過酷さを訴え、再検地を求める願書、中山道宿々への助郷負金軽減の願書などもあって、興味深いところである。

高遠町図書館に所蔵されている資料の大部分は、旧藩士の諸家からの寄贈による支配方資料であるが、この資料は貴重な領分の^{じかた}地方資料であり、名主交替の度毎に引き渡し書類が作成され、大切に保存されてきたものであり、さらに長い時代を超えて、現代の私共へと引き継がれた先人からの贈り物でもある。

平成15年11月
伊那市立高遠町図書館